

令和6年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	高齢者支援課
課等の長	榮 伸一
環境マネジメントシステム管理推進員	山中 美和子
課職員数	34 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	3 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	やすらぎ荘

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A～D)	監査員メモ
(1) 課等における環境負荷の認識	<p>照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でのガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。</p> <p>A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおよそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれていない。 D…把握していない。</p>	B	<p>現地調査では、陶芸窯の使用状況、温水取出機の使用状況、園芸ハウスと加温ボイラーの状況、施設内浴室と空調、照明状況を確認し、環境負荷の認識を確認した。特に温水取出機については重油を燃料としている旧式の機種を使用しており、老朽部分を修理をしながらの運用していることを確認した。そして、園芸ハウスの加温ボイラーについては故障による燃費の悪化があったことを確認した。ヒアリングでは、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問に回答があり、おおよそ認識していた。あわせて、事前提出のヒアリングシート監査項目(1)を見ても、環境負荷機器類等の使用状況をおおむね把握し、使用機器なども把握しており、おおよそ認識があると判断した。</p>
(2) 藤沢市環境保全職員率先実行計画の認識	<p>計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。</p> <p>A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。</p>	A	<p>質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断した。計画の策定について認識しており、具体的には、電力使用については、職員間で節電を心掛け、開所時間まで照明をつけない、こまめに消灯を確認する、灯油使用については、園芸ハウスの冬季維持温度を必要最低限に設定するなどの削減行動を実践している。あわせて、<b>照明電球の更新時に蛍光灯からLED照明への順次交換を図る計画を実践している。また、保温型貯湯タンクの改修、設置により、給湯温度の効率維持を実践している。</b>このことから、計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅していると判断した。</p>
(3) 温室効果ガス排出量の把握と分析	<p>温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。</p> <p>A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。</p>	A	<p>昨年度の排出量、増減率、理由をすべて把握し、的確に分析できていると判断した。令和5年度は前年度に比べて、LPG、A重油について排出量の削減がみられた。電気については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行後に使用不可としていた図書コーナーなどの共用スペースの使用が再開されたため照明と空調での使用量が増加し、灯油については、温室ボイラーの故障により使用量が増加したと把握、分析されている。また、LPGについては、喫茶用給湯器の利用率低下による使用量の削減、A重油については、温水取出機の修理により効率が改善され使用量削減となったことが把握、分析されている。</p>
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	<p>率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。</p> <p>A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。</p>	B	<p>今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」で掲げる2030年度に2013年度比-56%の排出削減量を認識して目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため、具体的な数値を設定して内容も具体的になっていると判断した。主に施設利用に関わるエネルギー使用量の削減努力を中心として、施設全体で前年度比で18%削減の目標を立てている。具体的な削減方法としては、電気の使用については、引き続き照明のこまめな消灯に努めるほか、LPG使用については、給湯器の利用削減に向けて周知徹底を行うとのこと。<b>A重油の使用については、ボイラーの効率化を図り、点検、管理を徹底すること。</b>灯油の使用については、設備の定期点検及び温室の適切な温度管理を徹底すること。</p>
(5) 課内周知	<p>課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。</p> <p>A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。</p>	A	<p>「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。具体的には、電気と灯油の使用量について、空調とストーブの使用時に適切な温度管理を行うように課内会議での周知のほか、指定事業者と利用者サークル会長会議でも周知を行っている。高齢者福祉施設のため、空調使用や照明使用の大幅な削減は難しい部分があるため、利用者には使用しない部屋のコマメな消灯、空調電源OFFなどの案内、周知を行っているとのこと。</p>

令和6年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【実施課等の情報】

課等の名称	高齢者支援課
課等の長	榮 伸一
環境マネジメントシステム管理推進員	山中 美和子
課職員数	34 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	3 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	やすらぎ荘

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(○・△・×)		監査員メモ
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができていないか。	電気	△	令和5年度は令和4年度と比べてLPGは9%、A重油は2%の削減を達成したものの、電気については11%、灯油については22%の増加となった。2013年度比で56%の削減目標から照らして、今後もさらに継続的な削減行動の実践が望まれる。今後 <b>LPGの使用削減には、例えば、給湯器から保温容器への移し替えにより給湯器の使用頻度を減らすなどの努力</b> が望まれる。電気の使用削減には、例えば、窓への遮光フィルムの施工や、植物でグリーンカーテンをつくり夏季の直射日光を避けて空調使用を削減するなどの努力や、節電努力の成果を数値化、見える化して職員、利用者に周知する方策の実践などが望まれる。 <b>灯油の使用削減には、例えば、ハウス入り口や作業区域に農業用保温カーテンを施行して、ハウス内の温度低下を防ぐ方策や、浴場の廃温水をハウスに導入して、加温ボイラーの作動を減らすなどの努力が望まれる。</b> また、今後利用者へのサービスの質を低下させないでさらなる排出削減を実践するためには、 <b>中長期的に「省エネ(蛍光灯のLED化、給湯器の電化)」「再エネ(電気のカーボンニュートラル種別への契約転換)」の導入検討</b> が望まれる。
		都市ガス	-	
		ガソリン	-	
		軽油	-	
		その他	△	

※判定基準

- …達成できている
- △…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる
- ×…達成できていない

令和6年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	下水道施設課
課等の長	濱野 誠司
環境マネジメントシステム管理推進員	田中 秀郎
課職員数	27 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	6 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	大清水浄化センター

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A~D)	監査員メモ
(1)課等における環境負荷の認識	<p>照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でのガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。</p> <p>A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおよそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれていない。 D…把握していない。</p>	A	<p>現地調査では、くみ上げポンプの稼働状況、処理施設操業状況、汚泥搬出状況、非常用発電機の運用状況、施設内照明の状況を確認し、環境負荷の認識を確認した。特にくみ上げポンプについては、流入汚水量を事前予測しながらなるべく大型ポンプを稼働しない運用を心掛けることで節電に努めていること、処理工程では反応タンクでのエアレーション(曝気)に使用している送風ポンプの電気使用が大きいが、汚水の性状に対応するために使用を抑えることが難しいことなどを聞き取った。ヒアリングでは、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問にも適切に回答があり、すべて認識していた。あわせて、事前提出のヒアリングシート監査項目(1)を見ても、環境負荷機器類等の使用状況を可能な限り把握し、使用機器などの割合も把握しており、十分な認識があると判断した。</p>
(2)藤沢市環境保全職員率先実行計画の認識	<p>計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。</p> <p>A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。</p>	A	<p>質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断した。電力使用については、事務所エリアの空調を集中管理しており、適切な温度設定を一括して行っていること、照明についてはLED照明への転換と人感センサーを導入していること、<b>節電励行ポスターの作成と各室スイッチ周辺への掲示などを実践している</b>。ガソリン使用については、<b>2台の公用車を現場出勤等に利用しているが、オンライン会議積極活用や相乗りの励行で使用を抑えるなど運用努力を実践している</b>。このことから、計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅していると判断した。</p>
(3)温室効果ガス排出量の把握と分析	<p>温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。</p> <p>A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。</p>	A	<p>昨年度の排出量、増減率、理由を把握し、的確に分析できていると判断。令和4年度は前年度に比べて電気、LPGについては排出量の削減がみられた。電気については下水の適性処理に伴い送風ポンプ等による使用量は増えたが排出係数の変更により排出量削減となったことが把握、分析されている。また、LPGについては給湯器使用頻度の減少が排出量削減となったことが把握、分析されている。ガソリン、A重油については排出量の増加がみられた。ガソリンについては緊急現場出勤が増加したことが、A重油については当該年度に限り受電設備更新工事中の停電切替時に非常用発電機を長期間稼働したための増加であることが把握、分析されている。</p>
(4)温室効果ガス排出量削減のための取組	<p>率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。</p> <p>A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。</p>	A	<p>今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」で掲げる2030年度に2013年度比-56%の排出削減量を認識して目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して具体的にすべて取り組んでいると判断した。主に施設内のエネルギー使用量の削減努力を中心として、大清水浄化センター全体で前年度比で-1%の目標を立てている。具体的な削減方法としては、電気の使用については、引き続き、流入汚水量を事前予測して大型ポンプの稼働しない運用に努める、エアレーションに使用している送風ポンプの省エネ運転に努めるとのこと。ガソリンの使用については、引き続き、オンライン会議の積極活用、公用車の相乗りに努めるとのこと。A重油の使用については、非常用発電機の点検を計画的に実施することのこと。</p>
(5)課内周知	<p>課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。</p> <p>A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。</p>	A	<p>「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。<b>ふじさわ下水道ビジョン等で「2030年カーボンハーフ達成」を掲げてきた経緯から、以前より省エネ活動や太陽光パネルの導入検討などの目標を立て、市民への周知のほか、課内でも目標達成に向けての行動計画を共有している</b>とのこと。具体的には、センター運営に関する各種データをまとめ、維持管理年報を毎年年度作成して実績を共有し、日々の削減行動に生かしているとのこと。また、老朽化対策としての設備更新期をむかえており、その際にどれだけの排出量削減ができるかについてポテンシャルを調査してその結果をまとめて職員間で共有している。</p>

令和6年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【実施課等の情報】

課等の名称	下水道施設課
課等の長	濱野 誠司
環境マネジメントシステム管理推進員	田中 秀郎
課職員数	27 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	6 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	大清水浄化センター

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(○・△・×)		監査員メモ
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができていないか。	電気	○	令和5年度は令和4年度と比べて電気は13%、LPGは17%の削減を達成したものの、ガソリンについては1%、A重油については226%の増加となった。2013年度比で56%の削減目標から照らして、今後もさらに継続的な削減行動の実践が望まれる。今後事務所のさらなる電気とLPGの使用削減には、例えば、節電やガス節約努力の成果を数値化、見える化して職員に周知する方策の実践などが望まれる。ガソリンの使用を削減するためには、例えば、車両更新時においてEVへの転換を検討することが望まれる。 <b>A重油の使用削減については非常用発電施設での使用のため削減は厳しいため、排出係数のより低い油種(例えば軽油)への転換、機種変更などが考えられる。そして中長期的には「創エネ(処理施設屋上への太陽光発電の設置)」「省エネ(機器更新時に省エネ機器への更新)」「再エネ(電気のカーボンニュートラル種別への契約転換)」の導入検討が望まれる。また、これらの中長期の削減方策はふじさわ下水道ビジョンやふじさわ下水道中期経営計画において、既に認知されており2030年までの削減行動計画に盛り込まれていることを申し添える。</b>
		都市ガス	-	
		ガソリン	△	
		軽油	-	
		その他	△	

※判定基準

○…達成できている

△…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる

×…達成できていない

令和6年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	下水道施設課
課等の長	濱野 誠司
環境マネジメントシステム管理推進員	田中 秀郎
課職員数	27人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	10人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	辻堂浄化センター

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A~D)	監査員メモ
(1) 課等における環境負荷の認識	<p>照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でのガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。</p> <p>A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおよそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれていない。 D…把握していない。</p>	A	<p>現地調査では、汚泥受け入れ状況、汚泥分離・脱水工程の状況、汚泥搬送工程の状況、汚泥乾燥・焼却の状況、施設内照明の状況を確認し、環境負荷の認識を確認した。特に、汚泥乾燥・焼却工程については燃焼に都市ガスを利用しており、ダイオキシン対策等により焼却温度を一定に保つためのガス利用は欠かせない状況であることを確認した。また、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問にも適切に回答があり、すべて認識していた。あわせて、事前提出のヒアリングシート監査項目(1)を見ても、環境負荷機器類等の使用状況を可能な限り把握し、使用機器などの割合も把握しており、十分な認識があると判断した。</p>
(2) 藤沢市環境保全職員率先実行計画の認識	<p>計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。</p> <p>A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。</p>	A	<p>質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断した。<b>電力使用については、事務所エリアの空調の温度設定をこまめに調節、工夫して使用していること、照明についてはLED照明への転換を行っていること、昼休みは消灯していること、各室照明スイッチ周辺ヘテプラで節電啓発などを実践している。都市ガス使用については、運転操作などの工夫で削減努力を実践している。</b>ガソリン使用については、2台の公用車の利用はオンライン会議積極活用により使用を控え、利用する際は急発進・急ブレーキを避けるなど運用努力を実践している。このことから、計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅していると判断した。</p>
(3) 温室効果ガス排出量の把握と分析	<p>温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。</p> <p>A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。</p>	A	<p>昨年度の排出量、増減率、理由を把握し、的確に分析できていると判断。令和4年度は前年度に比べて電気、ガソリンについて排出量の削減がみられた。電気については、汚水の流入量増加に伴い処理に要する使用量は増えたが排出係数の変更により排出量削減となったことが把握、分析されている。また、ガソリンについては、会議のオンライン化を進めたため公用車の使用が控えられ排出量削減となったことが把握、分析されている。都市ガス、軽油については排出量の増加がみられた。都市ガスについては汚泥の性状の変化等に伴うガスバーナーの使用量が増加したことが、軽油については非常用発電機の年次点検で前年度と異なる点検を行い長時間稼働したための増加であることが把握、分析されている。</p>
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	<p>率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。</p> <p>A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。</p>	A	<p>今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」で掲げる2030年度に2013年度比-56%の排出削減量を認識して目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して具体的にすべて取り組んでいると判断した。主に施設内のエネルギー使用量の削減努力を中心として、辻堂浄化センター全体で前年度比で-1%の目標を立てている。具体的な削減方法としては、電気の使用については、引き続き、流入汚水量に見合った適正な処理を継続すること。都市ガスの使用については、汚泥の性状に見合った適切な処理の継続に努めるとのこと。ガソリンの使用については、引き続き、オンライン会議の積極活用し公用車の使用を抑えるとのこと。軽油の使用については、非常用発電機の適切な管理を継続すること。</p>
(5) 課内周知	<p>課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。</p> <p>A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。</p>	A	<p>「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。ふじさわ下水道ビジョン等で「2030年カーボンハーフ達成」を掲げてきた経緯から、以前より<b>省エネ活動や太陽光パネルの導入検討などの目標を立て、市民への周知のほか、課内でも目標達成に向けての行動計画を共有している</b>とのこと。具体的には、センター運営に関する受電日報、月報などの各種データをまとめ、維持管理年報を毎年度作成して実績を共有し、日々の削減行動に生かしているとのこと。また、<b>節電意識を高めることを職員間で共有して、昼休み消灯や各室照明スイッチ周辺ヘテプラで節電啓発が実現している。</b></p>

令和6年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【実施課等の情報】

課等の名称	下水道施設課
課等の長	濱野 誠司
環境マネジメントシステム管理推進員	田中 秀郎
課職員数	27 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	10 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	辻堂浄化センター

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(○・△・×)		監査員メモ
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができていますか。	電気	○	令和5年度は令和4年度と比べて電気は14%、ガソリンは24%の削減を達成したものの、都市ガスについては6%、軽油については33%の増加となった。2013年度比で56%の削減目標から照らして、今後もさらに継続的な削減行動の実践が望まれる。今後さらなる電気の使用削減には、例えば、節電努力の成果を数値化、見える化して職員に周知する方策の実践などが望まれる。ガソリンの使用を削減するためには、例えば、車両更新時においてEVへの転換を検討することが望まれる。都市ガスについては、汚泥焼却時に使用が必要不可欠な状況であるため、省エネ運転の実施継続が望まれる。軽油の使用削減については非常用発電施設での使用のため削減は厳しいため、定期点検等での適切な管理が望まれる。そして中長期的には「創エネ(処理施設屋上への太陽光発電の設置)」「省エネ(機器更新時に省エネ機器への更新)」「再エネ(電気と都市ガスのカーボンニュートラル種別への契約転換)」の導入検討が望まれる。また、これらの中長期の削減方策はふじさわ下水道ビジョンやふじさわ下水道中期経営計画において、既に認知されており2030年までの削減行動計画に盛り込まれていることを申し添える。
		都市ガス	△	
		ガソリン	○	
		軽油	△	
		その他	-	

※判定基準

○…達成できている

△…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる

×…達成できていない

令和6年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	病院総務課
課等の長	田口 英太郎
環境マネジメントシステム管理推進員	柳瀬 裕登
課職員数	46 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	1274 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	市民病院

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A~D)	監査員メモ
(1) 課等における環境負荷の認識	<p>照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でのガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。</p> <p>A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおよそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれていない。 D…把握していない。</p>	A	<p>現地調査では、太陽光パネル設置状況、ボイラー稼働状況、空調機稼働状況、スタッフエリア照明管理状況を確認し、環境負荷の認識を確認した。特に空調機については医療機関の特性上、常時外気を導入している関係でエネルギー効率が高まらないことなどを聞き取った。ヒアリングでは、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問にも適切に回答があり、すべて認識していた。あわせて、事前提出のヒアリングシート監査項目(1)を見ても、環境負荷機器類等の使用状況を可能な限り把握し、使用機器などの割合も把握しており、十分な認識があると判断した。</p>
(2) 藤沢市環境保全職員率先実行計画の認識	<p>計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。</p> <p>A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。</p>	A	<p>質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断した。電力使用については、スタッフエリアの空調についてこまめな温度設定を行ったり、照明の間引きや使用していない部屋のこまめな消灯、使用しないPCの電源OFFによる節電などを実践している。あわせて、温度管理、消灯、節電励行ポスターの作成と各室スイッチ周辺への掲示なども実践している。ガソリン消費については軽自動車を必要最低限度の使用にとどめるなどの運用努力を実践している。このことから、計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅していると判断した。</p>
(3) 温室効果ガス排出量の把握と分析	<p>温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。</p> <p>A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。</p>	A	<p>昨年度の排出量、増減率、理由をすべて把握し、的確に分析できていると判断した。令和5年度は前年度に比べて、電気、都市ガス、A重油について排出量の削減がみられた。電気については医療器械入れ替えにより使用量は増えたが排出係数の変更により排出量削減となったことが把握、分析されている。また、都市ガスについては空調機の季節的稼働減が、A重油については非常用発電機の年2回試運転における燃油購入量減が排出量削減となったことが把握、分析されている。ガソリンについては排出量の増加がみられたが、これは能登半島地震被災地域への医療チームと救急車の派遣、市内救急搬送業務の増大により排出増となったことが把握、分析されている。</p>
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	<p>率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。</p> <p>A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。</p>	A	<p>今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」で掲げる2030年度に2013年度比-56%の排出削減量を認識して目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して具体的にすべて取り組んでいると判断した。主にスタッフエリアや施設管理業務などの削減努力を中心として、市民病院全体で前年度比で-1%の目標を立てている。具体的な削減方法としては、電気の使用については、引き続きスタッフエリアの照明間引きや、空調の適正温度設定に努めるほか、蛍光灯照明の順次LED化などを進めていくとのこと。都市ガスの使用については、空調用ボイラーと冷温水発生器の適正温度設定に努めるとのこと。ガソリンの使用については、今後市内救急搬送の需要増加が予測されているが、最短ルートでの走行や車内空調の適正温度設定に努めるとのこと。また公用車は必要最低限度の使用に努めるとのこと。</p>
(5) 課内周知	<p>課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。</p> <p>A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。</p>	A	<p>「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。具体的には、電気と都市ガス、ガソリンの使用量について課内会議等で定期的に共有しているとのこと。あわせて今後は排出削減の目標値の共有も図っていくとのこと。そして、これら課内周知によって、職員から削減に関する取り組み提案があり、温度管理、消灯、節電励行ポスターの作成と、スタッフエリア各室にあるスイッチ周辺への掲示などの削減啓発活動を実施している。</p>

令和6年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【実施課等の情報】

課等の名称	病院総務課
課等の長	田口 英太郎
環境マネジメントシステム管理推進員	柳瀬 裕登
課職員数	46 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設従事職員数	1274 人(会計年度任用職員等含む)
対象施設等	市民病院

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(○・△・×)		監査員メモ
(4)温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができていないか。	電気	○	令和5年度は令和4年度と比べて電気は9%、都市ガスは10%の削減を達成したものの、ガソリンについては38%の増加となった。2013年度比で56%の削減目標から照らして、今後も継続的な削減行動の実践が望まれる。しかしながら、短期的にエネルギー消費削減目標を設定して、照明や空調の適正管理、節電ポスター掲示を通じた削減啓発活動など着実に実行できている。特に削減啓発活動については、 <u>病院内だけでなく藤沢市内公共施設全体に共有できる排出削減行動実践策として高く評価できる。</u> あわせて、今後は啓発を実践した効果を示すことで行動することの意義づけしながら、実践が継続できることが望まれる。そして、医療機関といった特性上、利用者へのサービスの質を低下させないで排出削減を実践するためには、 <u>中長期的に「創エネ(太陽光発電の固定価格買取終了後における自家消費転換)」「省エネ(スタッフエリア蛍光灯のLED化、人感センサー化)」「再エネ(電気・都市ガスのカーボンニュートラル種別への契約転換)」の導入検討</u> が望まれる。また、 <u>今後の西館等の再整備計画に向けては、再エネ(太陽光等)の導入、照明LED化など、排出削減を考慮した計画の盛り込みが望まれる。</u>
		都市ガス	○	
		ガソリン	△	
		軽油	-	
		その他	○	

※判定基準

○…達成できている

△…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる

×…達成できていない